

—スタッフ紹介—

役 職	スタッフ名
部門長兼理事 兼副病院長兼血液内科主任部長 兼薬剤管理センター長 兼臨床研修センター長	烏野 隆博
参 事	出山 恭隆
主 幹	中川 直樹
主 査	高橋 和代
主 査	泉原 里絵
主 査	安井 結香里
主 査	若林 里絵
主 査	西井 拓人
主 査	北庄司 敦久
	河津 敏明
	宮本 紅喜
	松浪 美和 (育休)
	原 訓子
	小垣 睦
	南 佳代
	山道 麻葉
	上田 祥子
	伊藤 健二
	中川 貴弘
	藪内 新平
	松本 光司(8月退職)
	越山 晶弘
	西田 愉可利
	小林 洋平
	奥田 剛史
	問屋 壮美
	釜野 健太郎

—概要—

薬剤科では、調剤、注射薬の無菌混合調製や服薬指導等のさまざまな業務を行っている。全病棟に病棟専任薬剤師を配置しているが、今年度10月からICUにも薬剤師の常駐を行い、オーダ入力支援等の新しい業務を実施している。

厚生労働省医政局通知「医療スタッフの協働・連携によるチーム医療の推進について」が発出され、薬剤師がチーム医療に参画することが求められており、当院では感染対策チーム(ICT)、栄養サポートチーム(NST)、褥瘡対策チーム、緩和ケアチームに積極的に参加し、医師、看護師等と共に多職種で病棟ラウンドを実施している。特に、抗菌薬適正使用支援チーム(AST)では、専任薬剤師を配置し、薬の専門家として積極的に適正使用を推進している。また、生活習慣病予防教室にも参加し、薬剤師が薬に関する患者向けの講習会を行っている。薬剤科では今後とも、質の高い病棟薬剤業務の実践と有効かつ安全な薬物療法を提供するため、以下の4項目を基本的な理念としている。

《基本理念》

1. 薬の専門家として、患者さんにとって有益な薬物療法を提供する。
2. 薬によるインシデント・アクシデントを減少させ、安全な薬物療法を提供する。
3. 臨床薬剤師として医療チームに貢献する。
4. 薬剤師の職能を高めるため、研究心を持って日々努力する。

—実績—

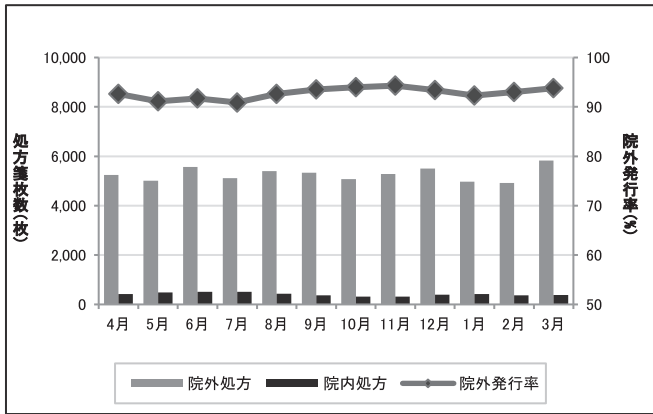
2000年4月より、病院運営の一環として、「医薬分業の徹底と薬剤科病棟業務の充実」に基づき、全面院外処方せん発行を行い、2022年度月平均の発行率は92.8%を達成している(グラフ1)。

薬剤管理指導業務における服薬指導実施患者数及び指導件数については、月平均の指導患者数714名、指導件数828件(退院加算230件)と順調な推移を示している(グラフ2)。

また、無菌製剤処理加算の施設基準を2001年3月に取得し、TPN製剤の調製を行っているが、2010年8月より一般の点滴を含めた全ての注射薬の無菌混合調製を行っている。2022年度における混合調製の実績として、調製本数は月平均806本、年間9,679本となっている(グラフ3)。

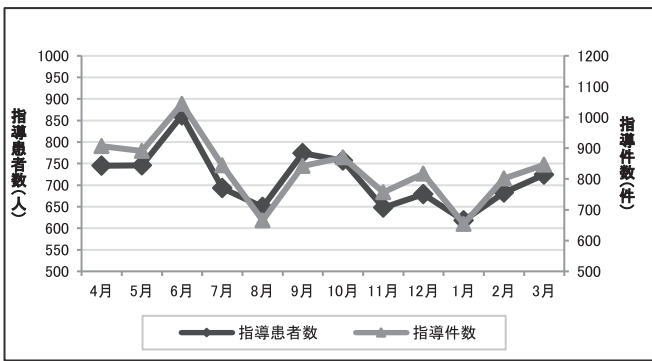
次に、外来の抗がん薬の混合調製を2002年8月より開始し、2004年12月より外来・入院の全患者について、抗がん薬のレジメンの一元管理と調製を実施している。2022年度における実績は月平均412名、年間4,948名の患者に調製を行い、調製本数は月平均555本、年間6,661本となっている(グラフ4)。また、2014年4月より外来がん治療センターにがん薬物療法認定薬剤師を配置し、がん患者指導料等を算定している。

さらに、患者サポートセンターと病棟において、全ての入院患者における薬剤師による持参薬の鑑別を2008年4月より開始している。2022年度における実績は月平均635人、3,610剤となった(グラフ5)。



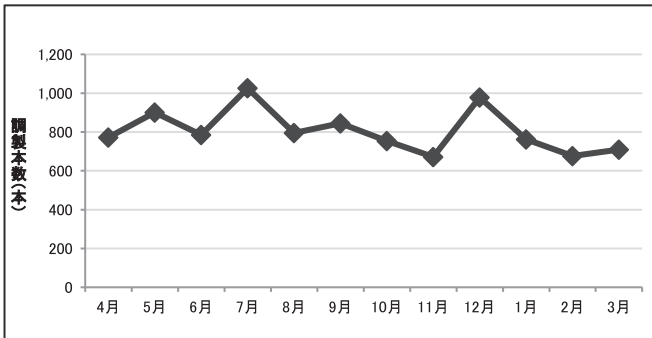
(グラフ1) 2022年度処方箋枚数と院外処方箋発行率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
院外発行率	92.6	91.1	91.7	90.9	92.6	93.5	94.0	93.4	92.3	93.0	93.8	
院外処方	5,243	5,005	5,566	5,119	5,402	5,339	5,078	5,282	5,507	4,973	4,923	5,828
院内処方	417	486	506	511	432	369	322	318	389	414	368	385



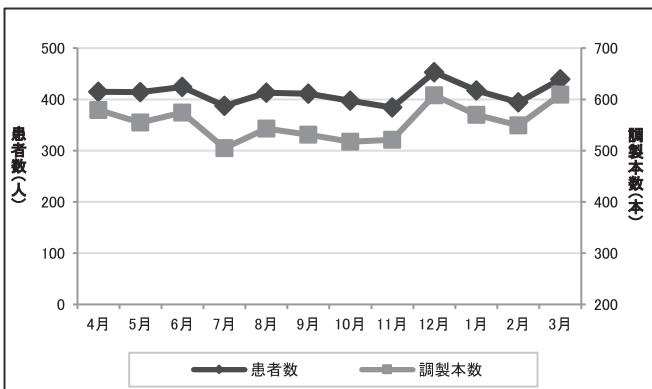
(グラフ2) 2022年度服薬指導実施人数・件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
指導患者数	745	746	862	693	649	774	757	648	679	618	683	724
指導件数	906	891	1,044	844	665	842	870	757	817	654	801	846



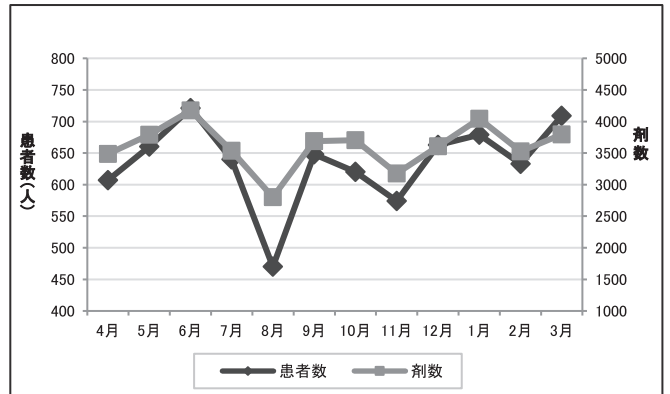
(グラフ3) 2022年度注射薬無菌調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
調製本数	773	901	786	1,026	796	845	754	672	978	763	676	709



(グラフ4) 2022年度抗がん薬調製患者数・調製本数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	415	414	424	387	413	411	397	384	453	417	394	439
調製本数	579	555	574	505	543	531	517	521	608	570	549	609



(グラフ5) 2022年度持参薬鑑別患者数・剤数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	607	660	721	640	470	648	620	574	663	679	633	709
剤数	3,484	3,792	4,173	3,534	2,801	3,688	3,702	3,179	3,809	4,044	3,528	3,796

—今年度の成果と反省点—

今年度の大きな成果は、これまで懸案であったICUへの薬剤師の常駐を行ったことである。また薬剤の発注業務において、定数配置方式を導入しグリーンサプライによる発注代行業務を11月から開始し、薬剤科の業務整理の第一歩が進みだした。患者サポートセンターとの連携で、入院後に検査や手術が延期等にならないように抗凝固剤の鑑別を行うようになり、さらに循環器内科系での鑑別サポートにその運用を広げた。

—来年度への抱負—

服薬指導や各病棟への薬剤師配置に関して、十分にそのニーズに対応できるように今後、さらに業務整理をしていく。その中で、薬剤師助手の採用を病院に働きかけ、薬剤師として介入すべき業務を広げていく。

